

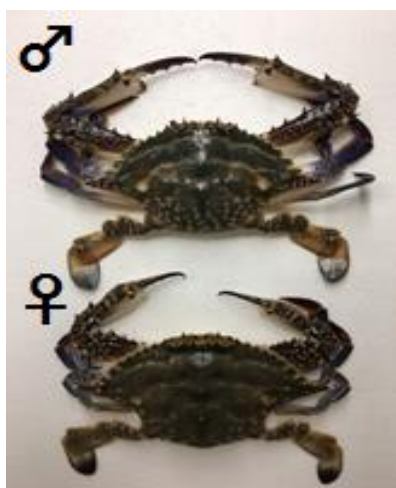
# ガザミ種苗放流と資源保護について

資源研究部 松尾 竜生

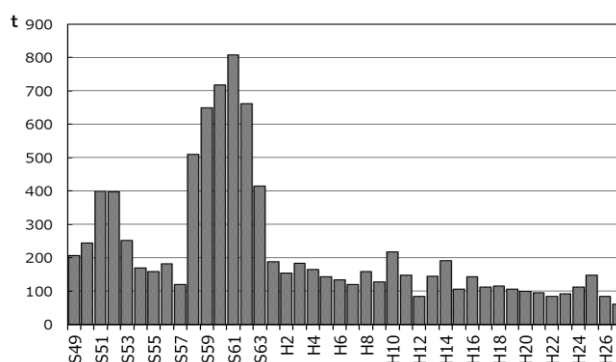
## はじめに

ガザミは、古くから親しまれている大型の食用ガニで、オールのような後ろ足を上手にを使って長い距離を泳ぐことで、ワタリガニと呼ばれています。有明海におけるガザミの産卵期は5～10月（盛期は6～8月）で、同じ個体が年3回以上産卵すると考えられています。

熊本県では、刺網やすくい網等で漁獲され、沿岸漁業の重要な水産物の一つとして位置づけられています。しかし、その漁獲量は、棒グラフにあるとおり平成以降、緩やかに減少しており、直近H27では約60トンと厳しい漁獲状況が続いています。漁業現場等においても漁獲の回復が強く望まれています。



有明海で漁獲された  
ガザミ



熊本県のガザミ漁獲量の推移  
(出典：農林水産統計年報)

## 種苗放流とその追跡調査

県は、関係機関と連携し、漁獲の回復を目指して、毎年、熊本有明海へ約60万尾の種苗を各地の干潟等で放流しています。また、放流後の効果も把握する必要があることから、有明4県（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県）で連携してDNA分析等による放流後の追跡調査に取り組んでいます。



稚ガニの放流風景

その結果、春に放流した種苗は、順調に生育すれば約100日で漁獲サイズまで成長することがわかってきました。また、他県海域へ移動するガザミの他、ある放流海域ではその海域へ留まるガザミも確認

されています。他の放流対象種に比べて、短期間のうちに大きく成長し漁獲につながる魅力的な種だと考えています。

## 小型ガザミの保護

現在、漁業者や遊漁の方々は、ガザミの資源保護のため、黒デコ（孵化前の卵を持った雌親）の保護や禁漁期間の設定及び全甲幅長 12cm 以下の小型ガザミの保護等に取り組まれています。

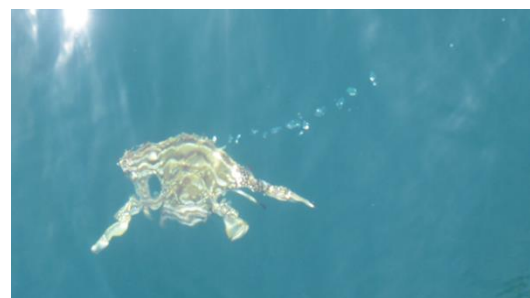
当水研の漁獲物調査によると、卵をお腹に持っていない個体の最少サイズは H27、H28 及び H29 が約 12 cm でしたが、卵をお腹に持つ、或いは、持っていたガザミの最少サイズは H27 が 14.0cm、H28 が 13.3 cm、H29 が 13.7 cm であり、漁獲物は全甲幅長 12cm 超えるガザミがほとんどでした。



雌親（黒デコ）が卵を抱く様子

また、多くのガザミで卵を持つことが可能となるサイズが、全甲幅長約 15cm とすれば、小型ガザミの中でもできるだけ大きな個体を守る必要があるようです。

たとえば、小型ガザミが水揚げされた場合、できれば全甲幅長 15cm 以下、少なくとも 13cm 以下は再放流する等に取り組む必要があると思います。



再放流し海中に戻っていくガザミ

このことは、海の中で多回数の産卵を経て漁獲されることによって、ガザミの資源増へのチャンスが広がり、単価安の小型ガザミに対し、大型化するのを待つて水揚げすることにより、ガザミの経済的価値の高まりも期待できます。

ちなみに、今年度の標本船調査等に基づく漁獲量を推定した結果、H29 年度の漁期は、H27 や H28 年度漁期を上回っていることが予想されています。漁獲がやや回復している今の時期こそ、親ガニとなる資源量が多いことが期待できるので、小型ガザミを取り残す、つまり保護する取り組み効果が高まると思います。

県内の刺網やすくい網に従事する複数の地域グループでは、自主的な取り組みとして全甲幅長 13cm 以下の再放流を決定する等、ガザミ資源の保護に積極的に取り組まれています。

ガザミは、漁業者や遊漁の方々により漁獲されており、その形態も様々ですが、各地の実情に応じた資源保護のためのルールを定め、グループで協力し合って資源を増やすための取り組みを進めることができると考えています。